

平成 28 年度「立正大学研究推進・地域連携センター研究支援費」研究成果報告書

1. 種 目 第 2 種

2. 研究課題名 日中韓の貿易構造変化と各国経済への影響－国際産業連関表による実証分析－

3. 研究代表者

研究代表者名		所属部局名	職名
みやがわ	こうぞう	経済学部	教授
宮川	幸三		

4. 連携研究者

連携研究者名		所属部局名	職名
おう	ありよし	経済学部	教授
王	在喆		
やまだ	みつお	中京大学経済学部	教授
山田	光男		

5. 研究実績の概要

当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、申請書に記載した「研究目的」、「研究計画・方法」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述して下さい。

本研究の目的は、日中韓それぞれの貿易統計データと各国の産業連関表を接続した日中韓国際産業連関表を作成し、日本、中国、韓国との貿易が日中韓それぞれの経済に及ぼした影響の大きさを実証分析によって明らかにすることである。貿易が各国経済に及ぼす影響は、単に貿易財の生産が増加・減少するというものでなく、直接は貿易を行っていない中間財やサービスなど広い範囲に及ぶものである。このような、各国の幅広い産業の生産活動に貿易が及ぼした影響を計量的視点から分析するためには、国際産業連関表（以下では国際表と呼ぶ）の作成が必要不可欠である。国際表の作成に際しては、貿易統計データの整合性チェックや産業連関表と貿易データの共通部門分類の作成、各国産業連関表の概念調整、といった膨大な作業と専門的知識が必要となる。その意味においては、日中韓表を整備すること自体も、本研究の大きな成果の1つである。研究は2年間にわたって実施する計画であり、初年度の平成28年度には、日中韓共通部門分類と貿易マトリックスを整備した上で分析を行った。

日中韓共通部門分類に関しては、各国産業連関表および各国貿易統計と整合的であり可能な限り詳細な分類として、貿易財に関して81の共通部門分類を作成した。また日中韓それぞれの貿易統計を入手し、共通部門分類に基づく2012年から2015年にかけての毎年の3か国間の財別貿易および3ヶ国の対米、対EU、対その他世界の貿易に関するマトリックスを作成した。この貿易マトリックスを用いて、最終消費財と投資財、中間財のそれぞれについての貿易額の推移を観察した上で、グローバルロイド指数による産業内貿易に関する分析、RCA（顕示的比較優位（Revealed Comparative Advantage）指数）による比較優位構造の分析を行い、日中韓の貿易構造の実態を明らかにした。

6. 研究発表（平成 28 年度の研究成果）

〔雑誌論文〕 計（ 1 ）件 うち査読付論文 計（ 0 ）件

著者名	論文標題			
Yamada., Mitsuo, Zaizhe Wang, and Kozo Miyagawa	Development and Challenge of the Japan-Korea-China International Input-Output Table			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁
経済学季報	無	第66巻 第1・2号	2 0 1 6	pp.89-104

著者名	論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁

著者名	論文標題			
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁

〔学会発表〕 計（ 1 ）件 うち招待講演 計（ 1 ）件

発表者名	発表標題		
Mitsuo Yamada, Zaizhe Wang, and Kozo Miyagawa	Development and Challenge of the Japan-Korea-China International Input-Output Table		
学会等名	発表年月日	発表場所	
24th IIOAConference	2016年7月7日	Yonsei University SEOUL, Korea	

〔図書〕 計（ ）件

著者名	出版社		
書名	発行年	総ページ数	

研究補助を受けた方は、「研究成果報告書」を提出していただき、ホームページ等で研究成果を公開いたします。研究成果が公開できない事情がある場合には、その理由を記述して下さい。

※研究成果を公開できない理由

--